

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑬【地域づくり】 地域の漁家・農家に民泊する等の体験活動を通して、自分たちが住む自然や郷土を守り、将来に向かって地域に貢献していこうとする態度を育てる。	総合

【題材】

- ふるさと体験学習「地域の魅力！再発見」

【対象】

- 第6学年

【実践の概要・詳細】

＜概要＞ **体験活動を通じた復興教育「ふるさと体験学習」**（9月25日～26日）

- ・自分たちが住む侍浜町の理解と、そこに住む人々とのつながり、そして、自然や郷土を守り、将来に向かって地域に貢献していこうとする気持ちを育てるために、6年生が地域の漁家や農家に民泊（1泊2日）する体験を通して学ぶ「ふるさと体験学習」に力を入れている。

この学習は、久慈市産業振興部交流促進課の事業として、同課と侍浜公民館の援助の下、久慈市立山形小学校と合同で実施し、交流の機会としても位置付けている。

＜詳細＞

《震災学習 横沼漁港の被災と復旧の状況》

- ・侍浜地区の漁港は、漁船をはじめ防波堤や船着場、作業小屋等が東日本大震災によって甚大な被害を受けた。津波が押し寄せた時の高さなど横沼漁港の被害状況を当時の写真と比べるなどして学習した。

《漁家・農家への民泊体験》

- ・侍浜町内の漁家・農家10軒に、3名～5名に分かれて民泊を体験した。民泊家庭の仕事や夕食などの料理づくりを手伝ったり、寝食を共にしたりすることで、相手意識を持った会話など貴重な経験になった。

《サップ船クルーズ体験》

- ・浜人倶楽部インストラクターにより、半崎漁港から横沼漁港まで乗船し、浸食棚の造形美を海上から見学した。サップ船に乗ることも初体験だが、陸地から海を見るのと全く逆方向からの景色も子どもたちにとっては得難い経験になった。

《みちのく潮風トレイルのトレッキング体験》

- ・三陸復興国立公園内にあり、「みちのく潮風トレイル」のコースとなっている遊歩道をトレッキングした。



遊歩道をトレッキング



震災学習



サップ船クルーズ



漁家での民泊体験

【授業の展開】

〔1日目（9月25日）〕

○入所式→郷土料理作り体験→昼食→サップ船クルーズ→震災学習→漁村民泊体験

(1) 郷土料理作り体験（横沼公民館）

侍浜地区の郷土料理等を食生活改善委員の方々（浜っ子母ちゃん倶楽部）に教えていただきながら調理し、その後楽しく会食した。今年は、お正月やお祝い事の時に作られた、鱧やユリ根、ニンジンなど地元食材を使った汁物、「つぼっこ」をメインとした料理を作った。

(2) サップ船クルーズ体験（約1時間）

浜人倶楽部の協力で、ウニやアワビ漁等に利用する小型漁船(サップ船)に乗った。海上から見る侍浜の海岸線の景観が素晴らしく、「楽しかった」「もっと乗りたかった」と多くの声が上がった。

(3) 震災学習（横沼漁港・・・サップ船クルーズの到着場所）

児童は、震災当時の写真を見たり、実際に津波がきた高さまで歩いたりして、津波の破壊力や甚大な被害の様子を実感した。

(4) 民泊体験（3～5人に分かれて宿泊）

漁家では一緒に魚をさばいたり、漁具の手入れをしたり、一生懸命手伝った。夕飯は楽しく、体験学習のことなど、食卓に話の花が咲いた。



〔2日目（9月26日）〕

○遊歩道トレッキング→昼食→塩作り体験→退所式

(1) 自然遊歩道をトレッキング（田子の木→横沼展望台）

侍のいた古い時代の伝説から、震災の爪痕として残る横たわったベンチなど、侍浜地区の歴史、自然の一端を直接学ぶことができた。

(2) 塩作り体験（横沼漁港作業施設）

「浜人倶楽部」による昔ながら鉄釜で直煮の塩作りの見学や、土鍋を使つての塩作り体験をした。

〈児童の感想〉

- ・ふるさとの魅力を再発見できてよかった。民泊先の人もやさしかったし、震災の時、どれだけ大変だったかが分かって、いい勉強になった。
- ・侍浜のいいところを再発見できた。これからも自分なりに侍浜のいいところをさがし続けられたらいいと思った。
- ・遊歩道は、坂道が続いてつらくなった。それでも、海の景色はすばらしかった。今までで一番感動した。

〈まとめ〉

- ・今年度初めて取り入れた震災学習を通して、震災にあった人の苦労や悲しみを、そしてそれらを乗り越えて支え合うことの大切さを児童一人ひとりが直接肌で感じる事ができた。
- ・今後も、それぞれの活動や体験を通して、「命の大切さ」「人との絆や地域とのかかわり」「災害に備える知恵」を学び取り、さらに、自分たちが住む郷土の良さに気付き、人との関わり方、つながりや絆を深めて、地域の発展に貢献できる人材になるよう取り組んでいきたい。



ふるさと体験学習コーナー